

～いらっしゃいませ！なんでもあります！～

縁日といえば！



まがたま屋台村では、盛りだくさんの屋台が並びました。焼き鳥、フランクフルト、フライドポテトにカレー、ゲームコーナー、他にもたい焼き、たこ焼き等ご家族様やボランティアの方々にもご協力頂きながら、楽しく行いました。

また、みよちゃんラーメンの出演販売や紅梅しようゆの、からあげ、きたがきのコロツケ等行列ができるほど賑わっていました。皆さんのたくさんの笑顔が見えた屋台村となりました！

(副実行委員長 坂本裕磨)



▲イラスト：石田

みんなで創ろう 新たなカタチ ～まがたま祭り～

まがたま

第17回 まがたま祭り 特集号
社会福祉法人上口福祉会
障害者支援施設まがたま
〒699-0201
松江市玉湯町玉造1649-2
TEL0852-62-2535
FAX0852-62-2586



第17回まがたま祭りを3年ぶりに開催ということもあり、たくさんの方々が来場され、天候は雨模様でしたが、皆さん笑顔で再会を喜びあうことができた祭りであったと思います。

体育棟では職員、利用者様の作品展を開きました。どの作品もとても仕上がりがよく、来場者の皆様もゆっくり作品を観ておられました。



ステージでは、玉湯踊ろう会の皆様をはじめ多くの団体さん出演してもらい大いに賑わっており、祭りを実感することが出来ました。

今回第17回まがたま祭りの実行委員長を務めさせて頂いたとき、開催に向けてたくさん紆余曲折してきましたが、事故等もなく無事に祭りを終えることが嬉しく思っております。まがたま祭りがこの先も利用者様、家族様、地域の皆様、職員、たくさんの人と盛り上がり上げていければいいと思います。(実行委員長 黒崎満)



▲イラスト：石田



編集後記



錦織優気 藤原未季 松本啓介 今井宏幸
松岡隼矢 石田裕雅 小室唯奈



当広報に掲載された写真につきましては、プライバシーに配慮し、予め、掲載の同意を得ています。

個性豊かな利用者様の集まるまがたま。職員も個性的な人であふれています。職員がそれぞれ特技を生かして、まがたま祭りの作品展を盛り上げました。

落合正和相談員は、絵画を展示。道徳の教科書の挿絵のような印象を受けました。その絵を一目見れば、心が落ち着き、優しい気持ちになれる事間違いなしです。

光江江支援員は造花を展示。一つ一つが光支援員の手作りで植物の特徴が緻密に再現されています。ぜひとも、一家に一つ、飾りたいものですね。

筆者の松岡は、写真を展示させて頂きました。テーマは「ふるさとを想う」ということで、島根の好きな風景や、まがたまの施設内で撮影した写真を展示しました。どの写真も私の好きな風景で、いつまでも地元を愛したいなあ、と展示をしていて思いました。

趣味があると人生が鮮やかになりますね。(生活支援員 松岡隼矢)

芸術に触れる
趣味を活かせる瞬間



地域と共に ~つくる事に喜びを感じて~



かとれあ班作品
かとれあ班は、作業後の創作活動にて作成したガラス瓶アートを飾りました。洋酒の空瓶・洋酒のグラスの中に、色付きの砂・こけ・造花の花を差し込んで、中には、可愛い動物達もメルヘンの世界を創りあげました。
利用者様、職員皆で楽しく作成しました。(生産活動班 谷川千恵美)

かとれあ班作品



今回のとまと班の作品は、ドラム缶を新たな形に変えようと考えました。色々な材料に手を加え、新たにドラム缶式薪ストーブを完成しました。利用者様には、ブラッシング作業や耐熱塗料を吹きかけて頂きました。煙突部分には溶接して設置しました。これからは、行事での活動やイベント、ビートルハウスの断熱に活用していく予定です。
(副実行委員長 下宮雅行)



とまと班作品



3年振りに開催されたまがたま祭りでは久しぶりに大勢のお客様でにぎやかなお祭りとなりました。生産品販売コーナーでは、まがたま生産班によるおなじみ、なめこ、ミニトマト、パン、柿、小物が沢山並び、終盤まで大盛況でした。
ご家族様のご厚意で、手作りマスクや部屋等に飾りたくなる可愛いポット等の販売もありました。コロナウイルスが流行している今、マスクは重要なアイテム！色とりどりのマスクは大好評でした。
当日はあいにくの小雨模様で肌寒い気候となりましたが、まがたま生産品を使った羊煮や焼き芋で、心と体も温まったことでしょう。
(班長 牧田郁美)

待ちに待った舞台 想いつながる



まがたま祭りと言えば、ステージでの出し物です。3年ぶりのまがたま祭りの再開でした。出演依頼をさせて頂いていただいている中で、「まがたま祭りへのお誘いを待っていたよ。」と、とても嬉しく、ありがたいお言葉をいただきました。
当日はあいにくの小雨模様、気温の低い中での開催でしたが、ステージが始まると、皆さん前に出て一緒に楽しみ、大盛り上がりとなりました。「喜び」がまさにカタチとなったまがたま祭りだったのでないでしょうか。
「湯の郷たま踊ろう会」「レイフラワーアナバたまゆ」「レクリエーションダンスマイペースたまゆ」「田舎兄弟ダンスサーズ」の皆様、ご出演ありがとうございました。
(副実行委員長 小泉拓也)

みんなで奏でるメロディ 音楽に感謝



行事委員会からまがたま祭りで松岡支援員と一緒に唄ってほしいといきなのオファーがありました。
当初2人で唄う予定でしたが、ひとりの利用者が一緒に唄いたいと言われ3人で唄うことになりました。
唄う曲は映画『耳をすませば』より「カントリロード」と利用者が大好きなあいみよんの「マリーゴールド」に決めました。
3人での練習は数回ほどしか出来ず、本番当日まで不安でしたが、皆様の声援があり無事に終えることが出来ました。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。
(生活支援員 今井宏幸)



昨年の第16回「まがたま祭り」から始まり色々な行事に参加させて頂いたとき、職員によるフラのチーム「まがたまフラシスターズ」もイベントで恒例となってきました。
興味があつて踊ってみたい方！いつでも仲間を募集中です！一緒に楽しみましょう！



そして今回の第17回「まがたま祭り」では利用者様の衣装を手作りしました☆協力していただいた職員の方、ありがとうございました！
利用者様からも「いつ踊るの？」とよく声を掛けられるようになり、たくさんの笑顔がみられ本当に嬉しく思います。
みんなで楽しく踊って気分も晴れやかに！心身共にリフレッシュしましょう！！
(看護師 錦織里佳)

森の探検家 ～素敵な出会い～

放デイの横の「トトロの森」には四季折々の素敵な出会いがあります。

実り多い秋には色鮮やかな自然の贈り物がたくさん！「見てみて」と手にいっぴい持って来てくれる利用児さんの純粋な思いを乗せて、「秋のトトロの森」を作品として再現してみました。優しい風が吹き届くと思います。歌を唄いながら森の中を散歩すれば、もしかしたら、可愛いトトロ達に会えるかな♪
(保育士 三島奈津子)



放課後デイサービス作品

完成の喜び ～笑顔が生まれる～



たんぽぽ・ひまわり班作品

たんぽぽ・ひまわり班では、卵の殻アート「大谷選手」とモザイクアート「おしり探偵」を飾らせて頂きました。
卵の殻では、小さく割ったものを、一つひとつ色を塗り、貼り付けていくという作業を日々の活動で利用者様と一緒に根気強く行い完成しました。

モザイクでは、一人の利用者様があか、あお等書いてある紙に毎日こつこつ折り紙を貼られ、長い期間かけて完成した作品です！日々の小さな努力が、大きな作品を生み出しました。また、完成した作品を見て皆の笑顔が溢れました。
(副班長 錦織優気)

～エコバッグの素材の秘密～ 環境を考える



こすもす班作品

季節の移ろい ～一年を振り返る～

やすらぎ・すみれ班の作品は、「春夏秋冬」をイメージして創作しました。
利用者様には、ちぎり絵を色ごとに分け、貼って頂いたり、絵具で絵を塗って頂いたりしました。コロナで外出が出来ないため、少しでも春夏秋冬を感じて頂きたい思いで、作品を作りました。
職員と利用者様でやすらぎ、すみれ班らしく穏やかな作品になりました。御覧頂き、ありがとうございます。
(生活支援員 桑原奈々)

やすらぎ・すみれ班作品



こすもす班は、日中活動の場で作成した『ビニールエコバッグ』と『こすもす班の日常写真』を展示しました。ビニールエコバッグは、お菓子のビニール製の外装をリユースした環境に優しいバッグです。
皆さんにもなじみある市販のお菓子の袋を使用しています。見た目にも楽しい、素敵な作品となりました。
『こすもす班の日常写真』は、日々の活動の様子や利用者様の普段の何気ない姿を写真に収め、まとめた作品を作りながら「あんなこともあったね」「こんなことをしたね」と思い出を振り返りながら作りしました。
(副班長 小泉佳織)

心を込めて ～一つひとつが手作り～

今年のまがたま祭りのテーマは「喜々みんなで創ろう新たなカタチ」です。ポスターはそのテーマをもとに「喜」と言う漢字を大々的に取り上げる形でデザインしてみました。
ポスターを一目見た時一番に「喜」へ目が向くようなコントラストにしていますが、これは製作を始める時にキャッチフレーズを聞いてすぐ思いついたアイデアをそのまま採用しています。



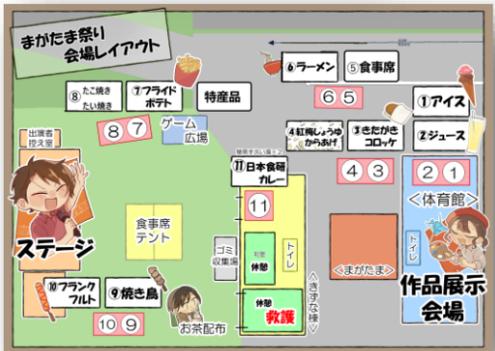
▲イラスト：石田



▲看板：松坂

テーマの“喜”の漢字一文字の周りに、ご利用者様・職員の手形を取りみんなが喜びに満ちています。
また、立体的に見えるように発泡スチロールを一つひとつ丁寧に切り、色塗りはたくさんの方の職員と協力して行いました。
当日はあいにくの小雨模様で、看板の絵の具が散ってしまいましたが、皆様のお陰で素敵な看板が完成し、多くの方にまがたま祭りを楽しんで頂き感謝しています。
(生活支援員 松坂正之)

祭りに参加される方が少しでも喜びや楽しさを感じられるように、と思いつきながら製作を進めていきました。
紆余曲折はありましたが、こうして完成したポスターを皆さまに見ていただくことが出来て嬉しく思います。
(事務員 石田裕雅)



幸せが実る木 ～みんなちがってみんないい～

ほたん班作品



見上げるほどの、迫力ある大きな木、今、実りの時をむかえています。
本来、棚に実るぶどうですが、ここでは、大きな木に実りました。粒の数も違えば、色も違う、周りには、色とりどりの動物たちも沢山集まってきました。
生まれた場所が違って、一人ひとり皆が集まれば、こんなに大きな「幸せ」が生まれるんですね。
一人しかいない自分、そして仲間をいつまでも大切にしたいものです。
「みんなちがって みんないい」
(生活支援員 松本美理)

故郷を想う ～身近なものを活かして～

れんげ班作品



田園とお花畑を一畑電車が走っているどこかホッとする風景と見る私たちに「癒し」を与えてくれる日本の四季を作品にしました。
メインの電車は卵の殻を使用し、背景の木々やお花畑は野菜スタンプを用いて、利用者様に好きな色を選んで頂き画用紙いっぱいにスタンプして頂きました。
普段使用しない材料だったので皆様楽しみながら活動に参加して下さいました。
また完成した作品を見て「きれいだね。いいね。」とお話して下さいました。
(生活支援員 坂根かんな)